

報道関係者各位

2000年4月13日

[参考資料 英文リリース日本語訳]

## ノバルティス2000年第1四半期売上 17%増加の93億スイスフラン (約6,100億円)

- 継続するビジネスの売り上げは18%増加し67億スイスフラン (約4,400億円)
- アグリビジネスはスイスフラン建てで19%増加
- 有望な臨床試験結果を得て、承認申請も順調：「ソメタ」「ゼルマック」は優先承認審査

### 第1四半期売上

	2000年		1999年		前年比	
	百万スイスフラン	億円	百万スイスフラン	億円	スイスフラン建て	現地通貨建て
医薬品	4,040	2,657	3,425 <sup>1)</sup>	2,799	18%	7%
ジェネリック	500	329	422	345	18%	12%
チバビジョン	401	264	350	286	15%	4%
コンシューマーヘルス <sup>2)</sup>	1,538	1,012	1,274 <sup>1)</sup>	1,041	21%	10%
動物薬	251	165	211	172	19%	8%
<b>継続するビジネスの売上合計</b>	<b>6,730</b>	<b>4,426</b>	<b>5,682</b>	<b>4,644</b>	<b>18%</b>	<b>8%</b>
継続しないアグリビジネスの売上 <sup>3)</sup>	2,611	1,717	2,192	1,792	19%	9%
売却したコンシューマーヘルスの売上			98	80		
<b>合計</b>	<b>9,341</b>	<b>6,144</b>	<b>7,972</b>	<b>6,516</b>	<b>17%</b>	<b>7%</b>

1) 2000年第1四半期に、医薬品の製品の一部分がコンシューマーヘルスの一般薬に移管された。移管された製品の昨年同期の売り上げは7,000万スイスフランであった。医薬品とコンシューマーヘルスの売り上げはこれに応じて調整済。

2) 売却したビジネスを除く。

3) アグリビジネス：農薬と種子。

換算レート:2000年 1スイスフラン=65.77円  
1999年 1スイスフラン=81.73円

- スイス・バーゼル市、2000年4月12日

ノバルティスの第1四半期の売り上げは、93億スイスフラン (約6,100億円) でした。これはスイスフラン建てで17%増加、現地通貨建てで7%の増加です。昨年売却したビジネスと、今年後半にスピノフする予定のアグリビジネスの売り上げを除く「継続するビジネス」の売り上げは、67億スイスフラン (約4,400億円) でした。これはスイスフラン建てでは18%増加、現地通貨建てでは8%の増加です。アグリビジネスは特に北半球とアジア

環太平洋地域で良好なスタートを切りました。

## < 継続するビジネス >

### 医薬品 (現地通貨で7%増)

医薬品では、新製品と主要製品に注力するという戦略の効果が顕著に現れました。高血圧治療薬「ディオバン/コディオバン」(50%増)は、米国で急成長を遂げているアンジオテンシンII受容体拮抗薬の中でも際立った成長を見せました。新しくポジショニングと、ターゲティングの見直しを行ったため、新規処方30%以上を占めることができました。ベナゼプリルとアムロジピンの合剤「ロトル」(79%増)が好調で、高血圧治療薬「チバセン/ローテンシン」(40%増)グループの売り上げを大きく伸ばしました。骨吸収抑制剤「アレディア」(27%増)、ぜん息薬「フォラジール」(24%増)、骨粗しょう症治療薬「ミアカルシック」(21%増)、持続性ソマトスタチンアナログ製剤「サンドスタチン」(14%増)も順調に成長しました。抗真菌薬「ラミール」(8%減)は「ラミールクリーム」が米国において一般薬として発売されたため、全体では減少を示していますが、「ラミール錠」は日本で力強い伸びを見せ、米国でもシェアをさらに伸ばしました。免疫抑制剤「サンディムン/ネオオラル」(7%減)は競合の激化と、昨年末の2000年問題対策としての在庫量増加の影響を受け減少しました。「ネオオラル」は、3月に日本で承認を受けました。鎮痛・抗炎症剤「ボルタレン」(8%減)は、予想通りジェネリック品と競合品の影響を受け減少しました。

てんかん治療薬「トルプタール」が最近米国、イギリス、ドイツで上市され、好調に売り上げを伸ばしています。パーキンソン病治療薬「コムタン」は米国で昨年末に上市され、順調です。アルツハイマー病治療薬「エクセロン」は、主要市場でさらにシェアを広げました。

開発も好調に進んでいます。1月に米国FDAは、悪性腫瘍による高カルシウム血症治療薬「ゾメタ」が「アレディア」を上回る効果があるということから、「ゾメタ」を優先承認審査することを決めました。過敏症腸症候群治療薬「ゼルマック」も他の治療法と比べて優位性があることが認められ、FDAは優先的に承認審査することを決めました。通常このような優先審査の決定から6か月以内に承認がおりています。3月に、アレルギー性ぜん息・鼻炎治療薬「E25」に関する、臨床試験第3相の有望な結果が得られました。米国とヨーロッパで第2四半期の申請に向けて準備が進んでいます。

### ジェネリック (現地通貨で12%増)

ジェネリックでは、特に完成医薬品の伸びが顕著でした。ドイツでアズファルマ社が、高血圧治療薬「リシノプリル」を上市したのをはじめ、潰瘍治療薬「オメプラゾール」、抗バクテリア薬「アモキシラット」も引き続き成功を収めました。米国では、ジュネーブ製薬がアクネ治療薬「トチノイン」を上市しました。降圧剤「テラゾシン」も順調に推移しています。ニュージャージーに本拠を置く、ジェネリック医薬品の開発・生産企業インバムト社の買収も売り上げ増大に貢献しました。ドイツのピオケミ社のバルク製品が引き続き好成績を収め、価格破壊が続くペニシリンとエリスロマイシン市場でよく健闘しています。

### **チバビジョン** (現地通貨で4%増)

売り上げの牽引力となっているのは、頻回交換レンズです。特に 1日使い捨てコンタクトレンズ「フォーカス・デイリーズ」は売り上げが2倍以上に増えました。最近上市された、バイフォーカル・コンタクトレンズ「プログレッシブ」は、先行市場で目覚ましい成果を挙げています。従来のコンタクトレンズとレンズケア用品は、需要の減少と競争の激化に直面しました。眼科用医薬品は、画期的な加齢性黄斑変性症治療薬「ビジュダイン」が世界に先駆けてスイスで上市されました。

「ビジュダイン」は、米国FDAの諮問委員会が承認勧告を出しました。24ヵ月に及ぶ臨床試験結果では、効能の持続性と安全性が報告されています。3月、緑内障治療薬「レスキュラ」の承認申請が米国と欧州連合に提出され、FDAから優先承認審査のステータスを得ました。

### **コンシューマーヘルス** (現地通貨で10%増)

一般薬 (6%増)は、特に米国とカナダで好調だった風邪薬「ネオシトラン/テラフル」と禁煙補助薬「ニコチネル/ハビトロール」に支えられて売り上げを伸ばしました。処方箋の要らない「ニコチネル/ハビトロール」は、米国における主要な小売チェーンとの協力でプライベートブランド製品として上市され、ウォールマートやウォールグリーンで既に首位の座を占めています。

医療用栄養食品 (11%増)は、ヘルスケア・フード・サービス社がヨーロッパ市場で飛躍的にシェアを広げ、競争の激しい米国の市場でも着実に成長しました。チューブ用流動食や医療用具もドイツと米国で目覚ましい伸びを示しました。

健康・機能的栄養食品 (13%増)は、「グラデュエイト」シリーズで米国におけるシェアをまたも拡大したガーバーの力強いリードにより、売り上げを伸ばしました。幼児用栄養飲料「オバルチン」はヨーロッパで堅調な伸びを見せ、「オバルチン・スマート」はアジアで上市され、目覚ましい成果を挙げました。スポーツ栄養食品では、「アイソスター・アクチベーター」と「アイソスター・アクチフード」がヨーロッパの数カ国で上市されました。

2月、バルティスは、クエーカー・オーツ社とジョイントベンチャー、アルタス・フード・カンパニーを設立すると発表し、健康食品事業への参入をさらに拡大しました。アルタス・フード・カンパニーは、米国、カナダ、メキシコで、機能的食品ブランドの開発、マーケティングを行います。

### **動物薬** (現地通貨で8%増)

動物薬の売り上げは、ヨーロッパと中南米で畜産ビジネスが好転したこと、ワクチンを専門とするイギリスの動物薬メーカー、ベリコア社の買収により増大しました。米国では、ノミ/犬系条虫駆除薬市場における競争激化の影響を受けて、売り上げは低迷しました。バルティス動物薬の代表的製品、犬用ノミおよびフィラリア予防、腸内寄生虫駆除薬「センチネル」の承認申請をヨーロッパで行いました。

## < 継続しないビジネス >

### アグリビジネス (現地通貨で9%増加)

農薬の売り上げは、19億4,400万スイスフラン (約1,300億円) で、現地通貨で11%増加しました。ほとんどの地域において売上増加が達成されました。米国では2桁台の増加が達成されました。これは、全国的に春の到来が早かったため、第1四半期の売上が大きく膨らんだことによります。日本、ドイツ、イタリア、イギリス、ブラジルでも良い成果が報告されています。除草剤、殺菌剤、グリーンビジネス用農薬の売り上げが顕著で2桁台の増加がみられました。これは、除草剤「デュアル・マグナム」、「バイセップ・マグナム」、殺菌剤「ロヨレ・ゴールド」、「スコア」などの売上げが好調であったことによるものです。また、最近上市した殺虫剤「アクタラ/ クルーザー」も売り上げ増加に大きく貢献しました。第1四半期がこのように好調だったのは、春の早期到来により第2四半期に入るべき売り上げが前倒しになったためで、今後もこのように高い伸び率が継続するとは考えていません。

種子の売り上げは6億6,700万スイスフラン (約440億円) 、現地通貨で4%の増加でした。トウモロコシ種子の売り上げは、カナダ、中南米では好調でしたが、米国の市場環境は引き続き好ましいものではありませんでした。米国の大豆種子の売り上げは良かったものの、野菜種子は、遅いスタートとなりました。ヨーロッパでは、テンサイとサンフラワーが作付け面積削減の影響を受けましたが、花卉種子は、堅調に推移しました。

バルティスは、昨年12月に発表したように、農薬と種子の事業をスピンオフし、アストラゼネカのアグロケミカルビジネスと合併させ、新会社シンジェンタを結成する計画を進めています。現在、欧州連合と米国の各当局が、合併承認について詳細な検討を行っています。私たちは、今年の下半期には当局からの承認がおりるものと見込み、2000年10月11日に、株主の承認を得る予定です。

## < 資本戦略の進捗 >

バルティスは昨年8月、公開市場においてバルティス株を40億スイスフラン分買い戻す計画を開始しました。第1四半期の終わりまでに、約130万株を30億スイスフランで買い戻しました。ニューヨーク株式市場に2000年中ごろに上場する計画も順調に進んでいます。

## < 見通し >

バルティスは、継続するビジネスの売り上げは、現地通貨ベースでは引き続き増加すると予想しています。医薬品の通年の売り上げは1桁台の伸びを見込んでいます。一連の新製品導入に備えて、バルティスは引き続きマーケティング・セールスに投資していきます。このような投資増加をしながらも、予知できない事が起こらない限り、継続するビジネスからの営業利益は昨年を上回ると予想しています。

お問い合わせ先

**バルティス ジャパン株式会社**

〒105 - 6137 東京都港区浜松町2-4-1世界貿易センタービル37階  
広報担当・北原文代 電話 :03-5403-1485 ファクシミリ :03-5403-1477

**バルティス ファーマ株式会社**

〒106 - 8618 東京都港区西麻布4-17-30  
広報担当・渡辺 邦男 電話 : 03-3797-8027 ファクシミリ : 03-3797-4367

**バルティス アグロ株式会社**

〒105-6133 東京都港区浜松町2-4-1世界貿易センタービル33、34階  
広報担当・秋山 巍人 電話 : 03-3435-5258 ファクシミリ : 03-3435-4010

**チバビジョン株式会社**

〒140-0002 東京都品川区東品川2-2-24 天王洲セントラルタワー 13階  
広報担当・清野 美智恵 電話 : 03-5461-1301 ファクシミリ : 03-5461-1396

**バルティス シート株式会社**

〒289-2304 千葉県香取郡多古町高津原向ノ台401-2  
広報担当・岩崎 義和 電話 : 0479-75-3111 ファクシミリ : 0479-75-3122